

令和三年度

事業の概要

肥後医育塾

年間テーマ

「診療連携」を開催

常任理事(事業担当) 片瀨 秀隆

病院および診療所ごとに機能や役割は分担されており、それらが連携することで質の高い医療を効果的に受けることが出来ます。この患者さんを支えるための「診療連携」の仕組みについて「パンデミックにおける診療連携」、「病気の治療と管理に欠かせない『かかりつけ医』と『専門病院』の診療連携」、「母と児の二つの命を守る周産期医療の連携」の各テーマを用いて紹介します。適切な医療機関で診療を受けるための基礎知識として学びます。

第七十三回は、七月十一日(日)にホテル熊本テルサにおいて、新型コロナウイルス感染症における「診療連携」と題して開催しました。世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活、社会、経済に大きな影響を及ぼしています。もし自分や身の回りの人が罹った時どのように行動し

たらいいのか、感染症とワクチン、パンデミックについての概論と、受信時について、また、適切な医療機関で診療を受けるための基礎知識として、五名の方から講演がありました。

第七十四回は、十二月十一日(土)に「かかりつけ医」と「専門病院」の診療連携、病気を治療・管理するには、(仮)と題して開催いたします。地域の医療機関が持つ機能は分担されており、それらが連携することで私たちの病気や症状にあわせた適切な治療を受けることが出来ます。病気の種類やその症状次第で治療内容が異なるからこそ知っておきたい「かかりつけ医と専門病院の診療連携」について、「がん」や「脳卒中」などの症例を交えながら説明します。もしもの時のために、病気の治療と管理に関する知識を学びます。

第七十五回は、二月予定で「母と児の二つの命を守るために」周産期医療とその連携(仮)と題して開催いたします。妊娠から赤ちゃんの誕生まで、母親と胎児の成長と健康を維持す

ることは当たり前のことではありませんが、「周産期」には母親と胎児(新生児)の二つの生命に関わる事態が発生するリスクもあることから、産科医療と新生児医療の連携体制が必要です。赤ちゃんと家族、そして日本の未来を守る「周産期医療」について学びます。

なお、いずれのセミナーも開催後約一カ月後に熊本日日新聞紙面に内容を掲載し、Youtubeにて動画配信の予定です。

また、本財団ホームページにも掲載いたします。

総合生活情報紙「あれんじ」 健康・医学・医療・学術 記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

令和三年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」(タブロイド判十六頁三十五万部発行)の第一土曜日分の十面と十一面の見開き二頁について執筆・監修を担当いたします。

昨年度と同様に、メインの記事として「元気の処方箋」(最新の医学医療記事)を毎号掲載いたします。また、「子育て応援クリニック」(小児科関連の医学医療記事)(十面)も、読者からの

希望が多いとのことで、毎号の掲載といたします。「慈愛の心・医心伝心」(女性医療人によるリレーエッセイ)(十一面)はこれまで通り八回(五、六、八、九、十一、十二、二、三月)掲載いたします。「四季の風」(季節の新作俳句)は、これまで同様四回(四、七、十、一月)掲載いたします。

本年度も、「あれんじ」に掲載後全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに転載し、どなたでも自由に読めるようにすることにしております。

「第十二回熊本県医療人 育成総合会議」の開催

常任理事(事業担当) 片瀨 秀隆

テーマ「パンデミック下の病院実習とワクチン接種」

二〇二二年二月以来、日本でもパンデミックが終息しない新型コロナウイルス感染症に対して開発されたワクチンの接種に関して、学生や教職員への大規模接種をどうするかという問題に加えて、初めてmRNAワクチンが人間社会に登場し、且つ世界的な規模で一気に使用され、さらにはその流れに我が国がついていけなかったという驚きの事実があります。看護師